



Via Latina 22

2024年3月 329号

総本部よりのお知らせーマリア会

コートジボアール従属地区での終生誓願式	1
スペイン管区 新副管区長の任命	2
メリバ管区 新管区長の任命	2
毎年恒例のシャミナード国際神学校訪問	3
Domingo Lazaroと教育者たち	4
障害者のための祈り	6

コートジボアール従属地区での終生誓願式



Atsé Charles-Benoît Diambra士 (中央)
共同式司祭と大学生とともに

2024年2月3日 (土)、コートジボワールのアビジャン、トレイシュヴィルのノートルダム・デュ・ペルペチュエル・セクール小教区で、Charles Benoît Atsé Diambra士が終生誓願を宣立しました。

教皇大使であるMauricio Rueda Beltz司教が司式されました。また、フランス地区の副地区長Jean Édouard Gatuings師、コートジボワール従属地区長Noël Dominique Kouao Akobe師、小教区主任のHenri N'Dimon師、およびCharles Benoît士を力づけるために近隣の小教区から集まってきた司祭たちが誓願宣立式に参列しました。

コートジボワールの様々なマリアニスト家族グループのメンバー、Charles Benoît士の家族、トレビヴィルのサン・ジャン・ボスコ・カトリック校の生徒、Charles士がスポーツ教師として働いていたアビジャンにある2つのマリアニスト学校の職員、そして多くの友人や来賓も式に出席しました。ミサの後、サン・ジャン・ボスコ・カトリック校の敷地内で、お祝いの兄弟的な食事が振る舞われました。

スペイン管区 新副管区長の任命



マリア会の総長評議員会はスペイン管区の副管区長にHugo de Diego Akaiturri士を任命しました。最初の任期は2024年9月1日から5年間です。

Hugo士はログローニョのマリアニスト学校の生徒でした。1987年にマリア会で初誓願を立てました。彼は修道者としてのこれまでの全生涯を、スペインの様々な共同体や事業体（サン・セバスティアン、ピトリア、サラゴサ...）での司牧活動と教育に捧げてきました。また、サバティカル・イヤーを1年間コロンビアで、また他の1年をインドで過ごしました。

Hugo士は、彼の人生の特徴である司牧活動へのエネルギー、バイタリティ、熱意のすべてをあげて、スペイン管区におけるこの副管区長の仕事を引き受けます。管区長評議会の中で、彼は青少年と召命活動の補佐も務めます。私たちは彼に祈りと兄弟的な支援を約束します。

メリバ管区 新管区長の任命

2月20日の会議で、総長は、その評議員会の満場一致の同意を得て、Joseph Bellizzi士をメリバ管区の次期管区長に任命しました。Joseph士は1980年に初めてマリア会の誓願を立てました。養成課程修了後、ニューヨーク州ミネオラのシャミナード高校で教鞭をとり、その後、ユニオンデールのケレンバーグ記念高校で教鞭をとりました。シャミナード高校に戻り、士はその共同体の院長に任命され、そして1999年、同校の校長に就任しました。以来、約25年にわたり校長を務めています！



これらの責任に加え、Joseph士は、宗教教育、ソダリティ、子どもたち当ての要理教育のための“高校生教師”の準備など、多くの司牧分野で働いてきました。Joseph士は、その献身と創造性により、

修道者と信徒協力者の両方から尊敬されています。

Joseph士は2024年6月1日から管区長としての任期を開始します。現在、管区は管区長補佐のための意見聴取の真っ最中です。

この場をお借りして、Timothy Driscoll士のメリバ管区長としての長年の貢献に感謝いたします。パンデミック（世界的大流行）を含め、多くの困難があったこの複雑な時代に管区を率いた彼の誠実な奉仕に、管区内の多くの人々が感謝の意を表しています。私たちは、この感謝の言葉に賛同します！

毎年恒例のシャミナード国際神学校訪問

ローマにあるシャミナード国際神学校の教会法上の年次訪問が、2月15日から20日にかけて行われました。訪問委員会のメンバーは以下の通り：コートジボワール従属地区の地区長Noël Dominique Kouao Akobe師と霊生局長Pablo Rambaud師でした。

いつものように、委員会のメンバーは神学校共同体の生活を共にし、そのスケジュール、祈りの時間、食事に溶け込みました。訪問のはじめには、神学校の養成チーム：Miguel Ángel Cortés神学校校長、Frédéric Bini副校長とのミーティングが行われました。訪問中、神学生および養成担当者と個別に面会しました。



神学校共同体と二人の訪問者

今年の共同体は12名の修道者、10名の神学生と2名の養成担当で構成されています。それぞれの出身国は異なります。彼らは本会の8つの異なるユニットに属しています。イタリア語を学び、話すという課題に加えて、共同体が多文化主義という課題に直面していることは明らかです。この事実は、確かに挑戦であると同時に、大きな贈り物でもあります。二人の訪問者は、歓迎に対する感謝の意を表明し、また、神学生たちが自分たちが受ける養成（司牧的、マリアニスト的、学問的養成プログラム）に対して深く感謝していることを強調しました。

訪問の終わりに、委員会は、まず総長評議員会と養成担当者の両方に、次いで、自分たちが気づいたこと、およびこれからに向けた提案について話し合った神学校共同体全体に報告書を提出しまし

た。報告書はすでに全ゾーンの議長とマリア会の全ユニットの上長に送られています。

Domingo Lázaroと教育者たち

教皇フランシスコは聖人についてこう語ります：「支えとやる気とを与えてくださるあかし人もいますが、だからといってその人を丸写ししようとするのは違います。それは、主が与えてくださった各自それぞれの異なる道から、私たちが引き離しかねないからです。」『喜びに喜べ』(Gaudete et exsultate) 11)。



私たちは自分自身の召命を見極めなければなりません、私たちに刺激し、やる気を起こさせる人はたくさんいます。私たちと共通点のある人の中に聖性の証しを見出すことができれば、このようなことはずっと容易になります。この記事で私たちは、最近教会から尊者として宣言された偉大な教育者、Domingo Lázaroから私たちにもたらされる励ましを、すべてのマリアニストの教育者に提供したいと思います。彼は"実践的"な教育者であり、教師であり、校長でした。しかし、彼はまた、当時の文化的潮流と対話しながら教育について考察した知識人でもありました。さらに彼は、社会におけるカトリック教育の適切な制度的・集団的位置づけの偉大な推進者でもありました。

Domingoは1877年、ブルゴス県(スペイン)の小さな町、サン・アドリアン・デ・フアロスに生まれました。1893年にマリア会の初誓願を立て、1906年に司祭に叙階されました。10年間(1906-1916年)、サン・セバスティアンのサンタ・マリア学院の教師と校長を務めます。1916年、スペイン人として初めてスペイン管区長に任命され、1924年までその職にありました。その年に、マドリードにあるヌエストラ・セニョーラ・デル・ピラールの教師と校長になりました。

彼は、当時のスペインのカトリック学校を糾合して1930年に設立された、教育の友連盟(FAE - Federación de Amigos de la Enseñanza)の主要推進者の一人でした。彼はこの団体の公式出版物である雑誌『アテナス』に、教育に関する多くの記事を寄稿しました。1935年2月22日、師はマドリードで死去しました。教皇フランシスコは彼の英雄的徳を認め、列聖省は2019年5月13日の勅令によって彼を尊者と宣言しました。Domingo Lázaroは、どのようなかたちで今日の教育者である私たちに励ましてくれるでしょうか。ここでは、彼の考え方のほんの一例として、彼が書いた数節を紹介します。このマリアニストの教育者は、他にも多数ある中で、次の点に注意するよう私たちに招いています：

- 強い文化的対立のさ中にあっても、**対話の姿勢と真理への真摯な探求**。彼は1909年にサン・セバスティアンのカトリック・サークルで行われた講演で次のように述べています：「多くの場合、私たちが互いに理解し合うことがいかに難しいか、そして、私たちが相手の言っていることを、おそらくは最高の善意で、正反対に理解していることが少なくないか、に気づきました……。相手が私たちが、私たちが相手を正反対に理解するというように、私たちは誤った考えを形成します。悪は常に私たちの外にあると思わないでください。悪は私たちの内にもあるのです。私たちは、敵対者に真実をどう説明するかを知らなければならないし、また敵対者が持っている善良な資

質、つまり私が否定することのできない資質をどのように引き出すかを知らなければなりません。

- **教育者の仕事を偉大な使命として生きること**：「教職と教育は職業です。私がキリスト者であるならば.....それは崇高な使命であり、最も崇高な使命のひとつに神の協力者として携わることです.....。教育の対象は子ども、思春期の若者、青年であり、彼らは神秘的な可能性を秘めているため、非常に尊敬に値する存在です。彼らはあらゆる属性と権利を備えた人間です。彼らに対する私の権威は、決して恣意的でも専制的でもあり得ません。知的教育は、他人の考えで人の脳を満たすことにあるのではなく、むしろ知性を形成し、考える方法を教えることにある、と私は確信しているでしょうか？私は、生徒たちをより明確な理想像へと引き上げる機会を多く見逃していないでしょうか？私の努力は、私の愛する生徒たちの魂にキリストを形成することを目的としているでしょうか。（アテナス、1930年6月）

- **超越性の深みを含むインテグラル教育**：「現実の人間には、他の隠された、しかし非常に生き生きとした現実があります。現実とは、実際、否定できないものであり、人間を駆り立てて彼方へと向かわせ、人間を惹きつける絶対的なものの存在を権威をもって主張する提案やニーズです。」（アテナス、1932年6月）



- **ポジティブなものを認識し、奨励することによって教育する**。Lázaro神父は1919年の手紙でマリア会員にこう認めました。「私の息子よ、禁止事項をできるだけ使わないように...。積極的になろう...。どうしたら人の中に善い特徴、善の芽を見出せるかを知りなさい...そして、このからし種が発芽し、成長するのを助けなさい...。善であるものを見出し、奨励し、支持しましょう、そうすれば、善であり、善を望んでおられる神が、私たちの行動を支えてくださるでしょう。」
- **一人ひとりの個性に注意を払う**：「私のクラスは（動物の）群れではないし、私の生徒は名前を伏せた番号でもありません。すべての生徒にはそれぞれの個性があり、長所も短所もあり、独自の可能性と彼ら自身の摂理にかなった運命があります。ですから、彼らを預かっている間、私は一人ひとりの個性を発見し、研究し、尊重しなければなりません。このすべては、生徒一人ひとりにとって最大の善をもたらし、私のデリケートな使命を最大限に果たすという視点をもって為されなければなりません」（アテナス、1930年10月）
- **的に適って自らを刷新する教育学を発展させること**：「教育学においては、他のあらゆることと同様に、私たちカトリック信者は、2つの同じように非難されるべき態度を避けなければなりません：すなわち、一方では、無思慮に、また無謀にもあらゆる新しいものに身を投じ、それを受け入れて、自分を見失い、自分たちが不適切に代表している大義を危うくする自覚のない人の態度であり、他方では、内気で、ほんのわずかな目新しいもの気配を感じると頭をたれ、.....ショックを受け、よそよそしくなり、「伝統」と呼ばれるものに逃げ込む人々の、正反対の態度があります。分別のない無謀さでも、馬鹿げた愚かさでもありません...。カトリック信者としての私たちの態度は、

気高く、誠実で、穏やかで、勇気のある態度でなければなりません。」(アテナス、1934年4月)

- **生徒を大切に教育方法を実践する。** 彼の手紙のひとつ、1918年のものにはこう書いてあります：
「本質的なことは、頭を満たすことではなく、形成することです。考えることよりも考えを飲み込むことのほうが簡単です。脳に詰め込むことは、脳が同化・吸収する作業を助けるよりも簡単です。訓練するよりも、博学になるようにクラスを準備するほうが、コストはかかりません。知識を習得させるよりも、知識を注入するほうが簡単です…。もし生徒たち自身が最初の、そして最も積極的な教育者でなければ、誰も彼らを教育することはできません。」

優れた教育者は、生徒たちに長期的な足跡を残すことで評価されることを、私たちは知っています。スペインの偉大な哲学者Javier Zubiri (1898-1983) は、サン・セバスティアンでDomingo神父の教え子であり、その後、自分の人生の難しい時に神父の指導、同伴に頼ることもできた方でした。ここに彼の証言を引用します：「人は人生においてこのような人と出会う幸運を持つことはまれです。しかし、神がそのような人物をあなたの前に現れさせ、あなたがそれを必要とするまさにその時、あなたの精神を形成するDomingo神父のような方を得る時、あなたは本当に恵みを生きた体験として得たことになるのです。なぜなら、Domingo神父は、私にとってもそうであったように、多くの人々にとって神の特別な恵みであったからです。」 私たちマリアニストの教育者が、私たちに託された人々の人生において、小さいあるいは大きな神の恵みとなりますように！

障害者のための祈り



良きサマリア人である、主イエス・キリストよ、あなたのように、私たちは人生の道すがら、時として障碍と脆さを抱えている、傷ついた人にしばしば出会います。

身体的あるいは精神的な制約を持つ人々が、もはや疎外されることなく、むしろ尊重され、保護されるように、市民機関のプログラムとイニシアチブが、インクルージョンという「岩」の上に築かれますように。

そのとき初めて、浪費文化という「雨、川、風」が私たちの共通の家を脅かさなくなるでしょう。私たちに共通の家が必要です。

私たちを、特にあらゆる年齢や社会状況にある障害者男女を特に擁護し、すべての人の尊厳を継続的に支持する「いのちの文化」の推進者にしてください。

私たちは皆、壊れやすく傷つきやすい存在であり、皆同じ船に乗っており、あなたの目には皆尊い存在であることを、私たちが忘れないようにしてください。アーメン。

(教皇フランシスコの「国際障害者の日」(2020年12月3日)のメッセージに触発された祈り)



福者シャミナードへの祈りの意向

脳腫瘍の摘出手術を受けたMarilena (マリレーナ)さんの完全な癒しのために、福者ギョーム・ヨセフ・シャミナードへのノヴェナの祈りをお願いします。Marilenaさんは58歳で、ローマのマリア会総本部と神学校の両共同体に勤めています。この意向はマリア会の列聖請願総代理、Gascon神父によって提案された意向です。

最近の総本部通信

- 訃報：1-2号
- 2月2日：総会連絡#4, 付録#1, #2 準備委員会から3カ国語で第36回総会の代議員に送付
- 2月27日：シャミナード国際神学校訪問報告 霊生局長、Pablo Rambaud師から3カ国語で行政単位上長に送付

総本部日程

- 3月8日-15日：総長、André-Joseph Fétis師がカナダ地域共同体を訪問